

街なかの Organic unity 有機的建築・環境設計にむけて

Organic Unity
Towards Spatial Planning and Systematic Design in the Community

今 井 裕 夫
Hiroo IMAI

Abstract

Three kilometers northwest of Nagoya Station, and an eight-minute walk from the Honjin subway station, lies an old residential and shopping district. Torii Avenue, a beltline designed by the city, cuts through the area. The beltline, which gets a great amount of traffic, including many large trucks, is lined with commercial structures typical of a busy downtown area. As such, it is difficult to see it as an area fit for human habitation. However, tucked away just off the main thoroughfare in the former downtown district there are houses and old wooden apartment buildings, which make up a quiet residential area. The guiding principle of the work described in this paper was to create a house which would blend into the peace and tranquility of hidden away nook amidst the bustling urban sprawl.

Keywords : 雑然とした場所、浄化装置、Organic Unity、フォルム

要約

名古屋駅から 3 km 程北西にこの家は位置し、地下鉄東山線名駅から 2 区の本陣駅から徒歩 8 分のところにある。敷地からはツインタワーが意外に近く望見できる。名古屋市の幹線道路鳥居通は都市計画道路であり、かつての下町の街区に対し 40° ちかく振れて交差し、その交差点に鈍角をなす南東の一角に位置している。鳥居通は、交通量が多く、大型車の通行も数多く見られ、通りに面しては市街地らしく商業施設が立ち並び、住

居地区としては、不適である。唯、通りから一步入った地域はかつての下町としての住居や木賃アパートが密集し、市街地としての住居地域を形成している。

この一隅に、こうした条件のもと都市住宅として、人間が生活するにふさわしい静かさややすらぎのある環境と空間を作り出すことがこの住宅の命題となった。



概要

商業地区でも住宅地区でもない市街地の雑然とした状況とどこかおし寄せられ分断された面持ちと喧騒の計画道路に面しての敷地の生活との結界は、呼吸する木塀の延長であるかのような大きなHIDDEN DOORと野生の植物の棚により長めのアプローチによる。古い材料と手法である杉板による塀にタールによる防腐剤塗布、黒い板塀は9cmの板巾に8mmの隙間を持つ横張りの板厚18mmの呼吸する壁であり、その一部を通用口の手法で横引きの隠し扉のデザインとした。歩道との約7mの引きは、北向きの敷地巾全ての空地式の駐車スペースとしコンクリート箒目のタタキと路地を意識される碎石の砂利撒き仕上げとした。通用口前にはもとあったセンダンのような野生の樹の一本が似合う筈である。接道面が一つのためアプローチに当りをつけその塀面を隠し扉としてメンテナンス用のHIDDEN SPACEを確保した。

生活空間のための二層の中庭を設け、その中庭と向き合う形で2階建の主舎と離れ舎が建ち、主舎が生活部分とゲストルーム、離れ舎がプライベートルームとなっている。二層の中庭は、1階は半分が厚40ミリの杉板によるスノコテラス、半分は、直地面による苔類と中低樹木類による Biotope とし気配の浄化装置を意図している。この効果はゲストルームに主眼をおいている。2階の中庭は、呼吸する床やグレーチングとし、空気の上下の循環やグラウンドへの採光を意識すると同時に、両サイドにも呼吸する壁を設け中庭を木製スノコによるプライベートな外室として、主舎のLDKと離舎のスタディールームを大きな広がりとしてシークエンスで繋ぐことを意図した。

外室としての中庭は市街地であってもプライベートを保ち、陽のよく当たる多目的な空間としてこの住宅の生活のコアとなっている。

[外部]

主舎と離舎が中庭を挟み、鋸状のFORMを形成する。南側の採光を意識していることと、北側の軒を低くし中庭の広がりやを圧迫しないように配慮している為であるが、主舎の屋根が鳥居通に向かい1階まで下降しているのは、住宅正面の構えを低くし、そこに野生の植物棚を添わせて、ミドリの都市環境を形成するためである。もう一つ2階中庭のプライバシーを鳥居通の向い側に出来た高層マンションからの視線を防御するためである。奥行き長いコンクリート塀と板塀、それに黒い金属板による2連の鋸形のフォームが独特の雰囲気形成している。

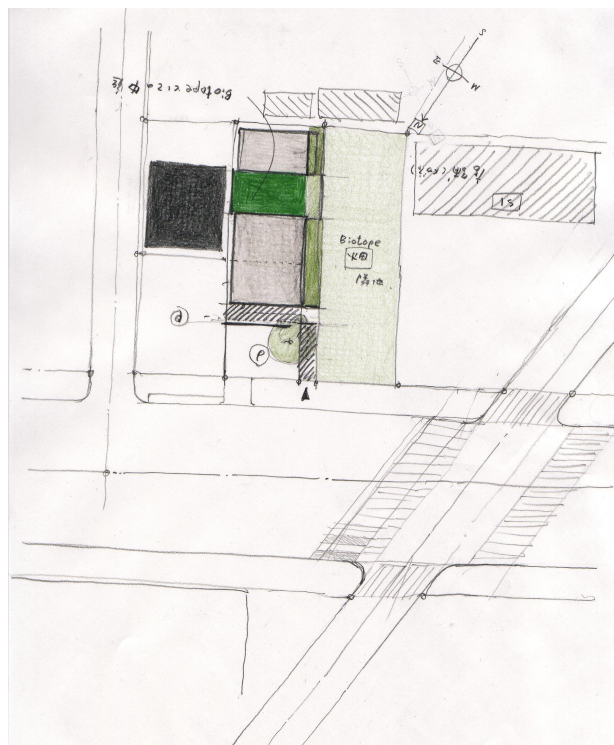
[内部]

野生のアケビによる植物棚が5年もすればトンネルを形成するだろう。アケビは香りのある淡い紫の花もあり、デリケートなうすい緑紫の実を結び、食することが出来る。常緑種のムベと違い落葉であり、冬は日当たりが期待でき、北側の植栽としては明るい性質の植生である。

玄関へは2階からの天井が1階へ連続した吹抜となっており

2階中庭からの南の陽が届くようになっている。

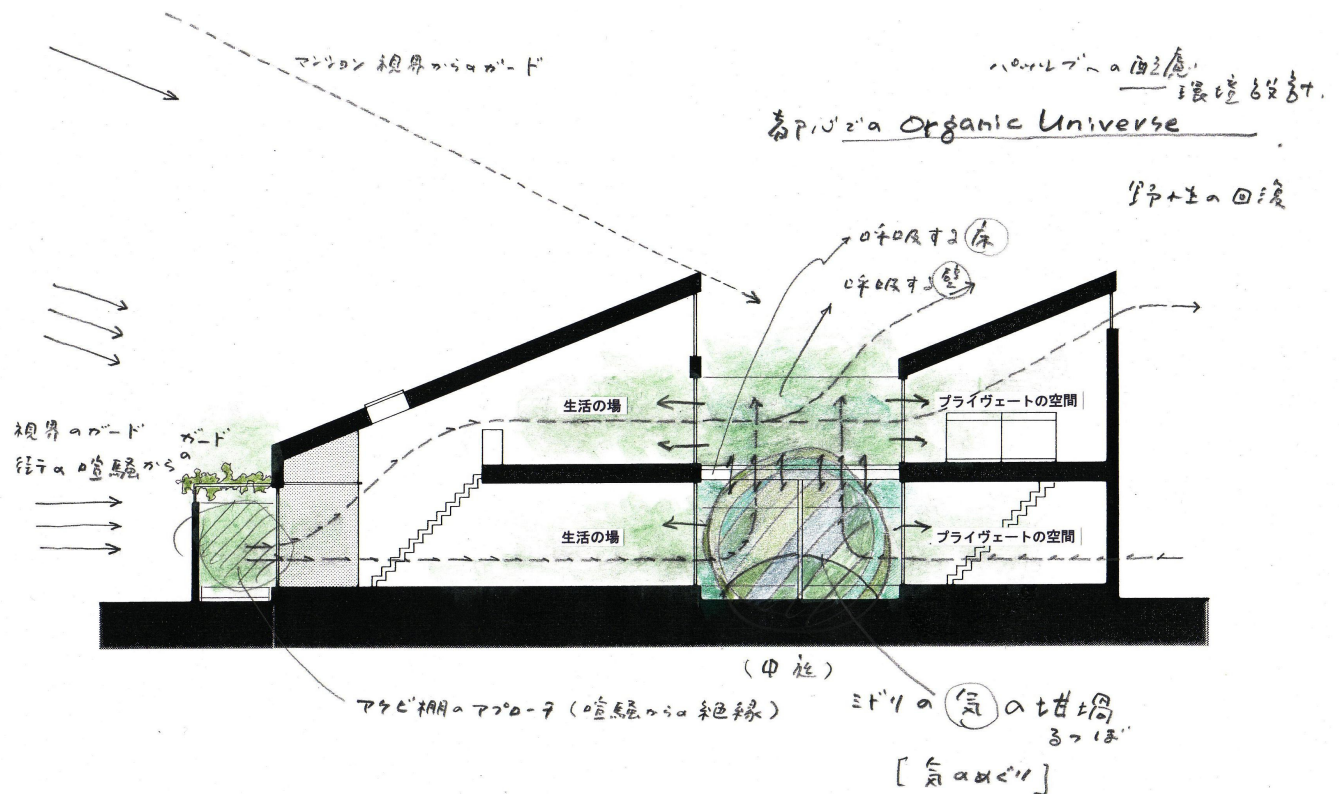
主舎1階の居間と離舎1階寝室が木製スノコの中庭とBiotopeとしての中庭を挟んで繋っているのが、内部空間・外部空間という単純な範疇を越えて成立させているのが、この家の都市住宅としての特色としている。

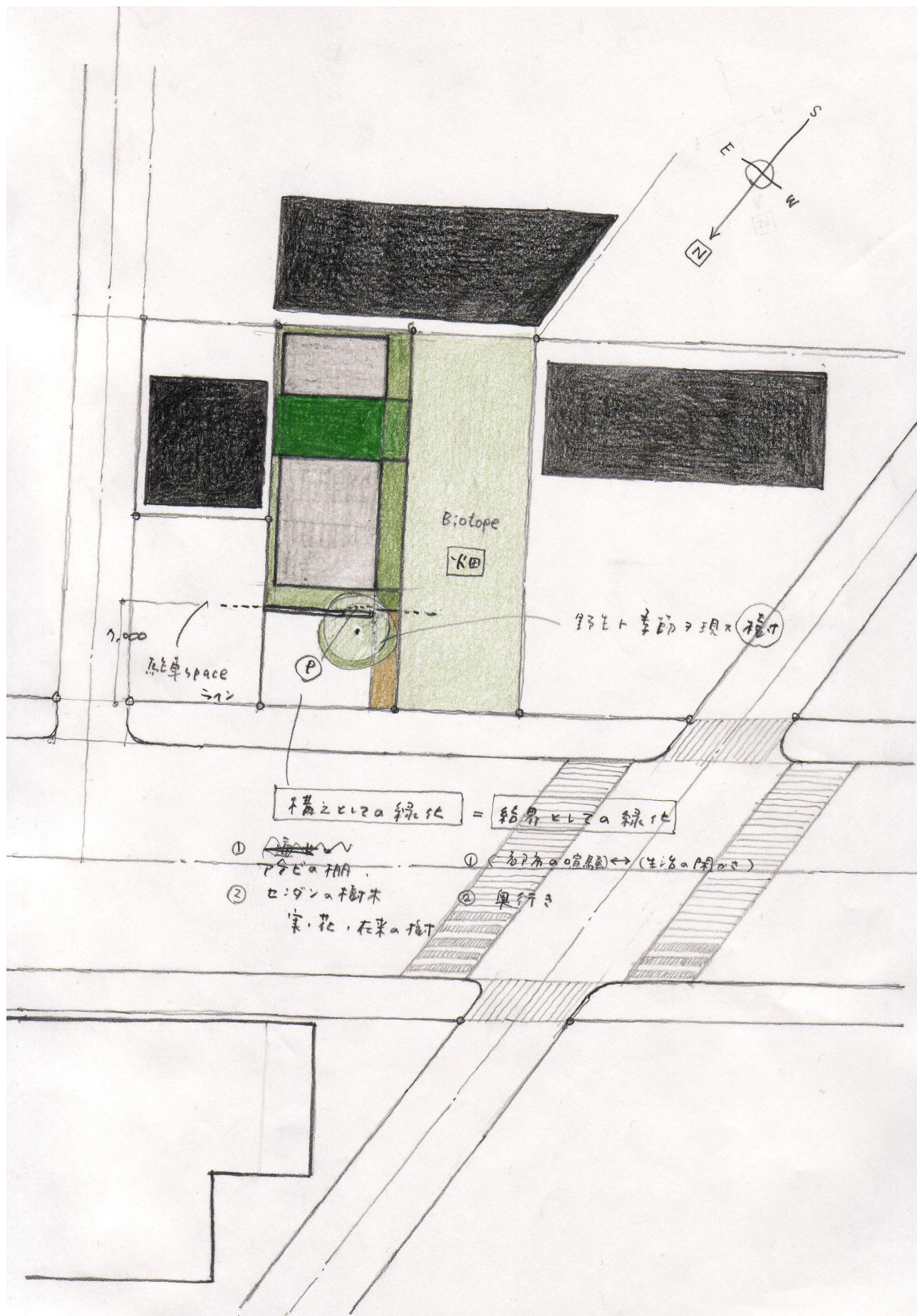


街なかの Organic unity

雑然とした とりとめのない場所
 喧騒としてざらつく精神
 交差点、大通り、交通量、雑音、
 視線（高層マンション、通行人）から生活をガードする
 隣接する外部、環境変化に対応する家
 環境（光、音、気の流れ）変化に自立出来ること
 慰めは自然の遺留品である畑
 FENCE HOUSE
 雰囲気を通り切る強固なもの
 さだまらない視線からの波立ち
 場所に対して存在感を持たせても、違和感を持たせない
 都市から生活へいざなう路地
 路地に生えるアケビ 外界との結界
 中庭 SPACE CORE
 街中での生活のために必要な
 みどりの気の泉
 隠れ家を求めるため
 呼吸する壁、呼吸する床からの畑の気を導入する

空間のシークエンス
 場所の抱え込み
 HIDDEN SPACE の中で OPEN に
 一本の樹を成立させる余白
 宇宙を閉じ込める
 軒の低い家
 澄んだ鉛色の屋根
 豊かなからっぽ
 手のとどく2階
 視線の調整
 生活と共鳴する
 内的境界の区切りと光と空気のシークエンス
 うちとそと
 空間との取り合い
 外に閉じるもの、内には開く Organic unity
 生活からのデザイン
 やわらかくて厚い壁
 うすくて硬い壁



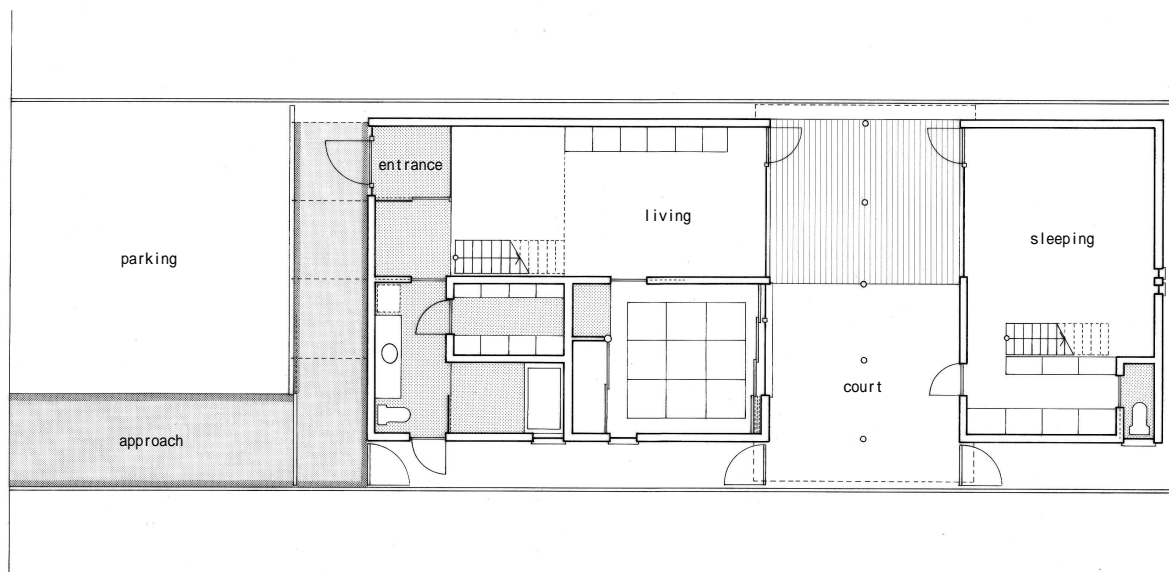


街なかの Organic unity

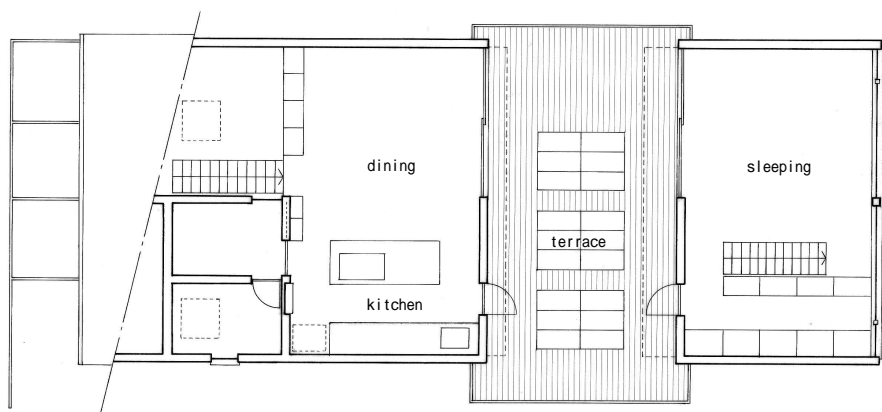




街なかの Organic unity



1F PLAN



2F PLAN

主な用途 : 専用住宅

敷地面積 : 244.61 m²

建築面積 : 110.96 m²

延床面積 : 165.62 m²

建蔽率 : 45.36% < 80%

容積率 : 67.70% < 300%

各階床面積 : 1階 99.37 m²

2階 66.24 m²

規模 : 地上2階

最高部高 : 7,110m

最高軒高 : 7,000m

構造 : 木造

地域地区 : 近隣商業地域

道路幅員 : 北西側 24m

外部仕上 : 屋根 カラーステンレス板貼 t0.4

外壁 ステンレス板スパンドレル貼 t0.4

開口部 アルミニウム製サッシュ

内部仕上 : 床 ナラフローリング t12

壁 クロス貼り(下地 石膏ボード t12)

天井 石膏ボード t9.5

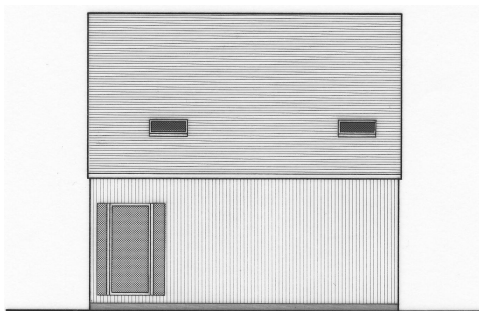
電気設備 : 受電方式 低圧受電

空調設備 : 冷暖房方式 空冷ヒートポンプ方式

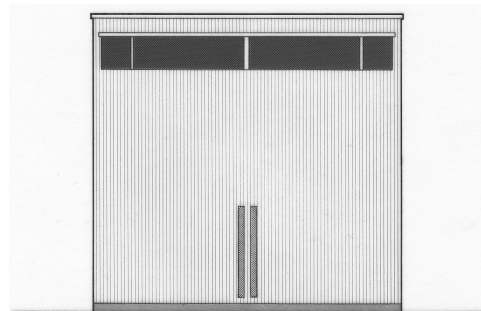
衛生設備 : 給水 上水道直結・井戸

給湯 ガス湯沸器暖間式

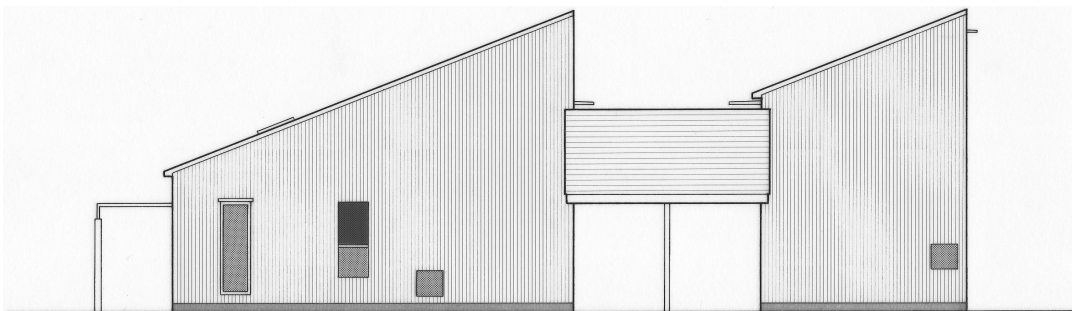
排水 下水道直結



North elevation



South elevation



West elevation

(提出期日 平成 17 年 11 月 28 日)